

## 指揮者・大熊啓さんのあいさつ

ご出演いただいた皆さんで歌を歌って終わりたいと思います。

ホワイエの方で加藤弘さんの追悼展示を行なっています。加藤弘さんはこの狛江市の歌「水と緑のまち」の作詞者です。加藤先生に何度もお話を聞く機会があったのですが、この詞をどういう思いで創られたのかとお伺いしたことがあります。加藤先生は明快にすぐに答えて下さいました。それは二度と戦争を起こさないために、平和な世の中を作るために、狛江で何ができるかと思って、私はこの詞を書いたのだと、笑顔で直ぐに答えてくれたことがいまでも心強く、忘れることができません。



この歌の最後にはあたたかく触れ合うまち、明日を拓く文化のまち、ともに求めつくろうというように歌っています。「ともに求めつくろう」が加藤先生の一番言いたかったメッセージなのではないかと思います。誰かえらい人がこの町を良くしてくれるのではなくて私たち市民の一人ひとりが、先ほどのパネルディスカッションではないですけど行動する、おかしいと思ったらおかしいと言う、良いねと思ったら良いよと言う、一人ひとりが声をあげて行動して行ってこそ、狛江市は良いまちになって行くんだと言う意思、メッセージをしっかりと受け止めて、今日もこの「水と緑のまち」を歌いたいと思います。まだ見ていない方は終わりましたら少しの時間ですけれどもホワイエの加藤先生の展示を見ていただいて、どういう思いでこの詞を創られたのか、その思いに馳せていただけたらと思います。それでは皆さん「水と緑のまち」をご一緒に歌いましょう。